

サケについての Q & A

人工孵化放流がなぜ必要なのですか？

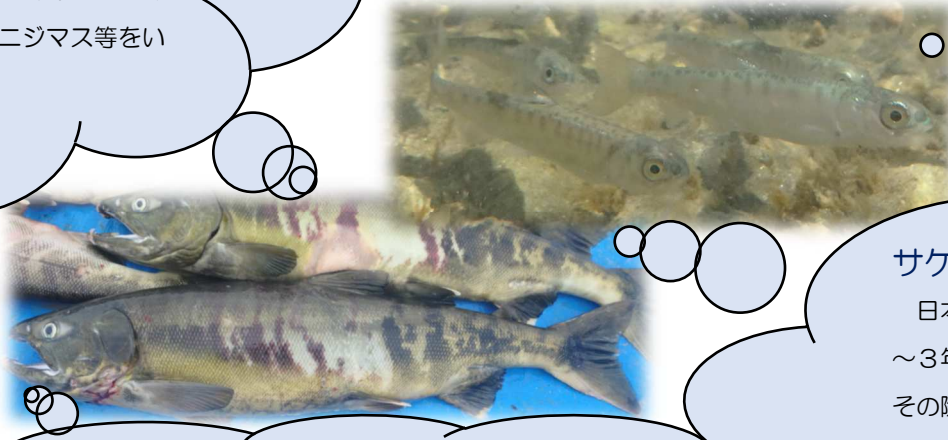
以前と比較して河川環境や海況の変化によってサケが自然の中で産卵し帰ってくるのが難しくなっています。そのため、人の手による補助が必要になります。しかし、人工孵化放流には多額のお金が必要なため、関係団体から援助を受けながら事業を行っています。

年齢はどのように調べますか？

鱗を顕微鏡などで拡大すると、樹木の年輪のような隆起線があり、これを見て推定しています。また、最近では頭の中にある三半規管の一部である耳石によって、鱗と同様に年輪のような模様によって年齢を調べることもできます。

サケとマスの違いは何ですか？

一般的にはサケはシロザケをいいます。しかし生物学的に明確な区別はありません。マスと呼ばれる魚は全てがサケ科の魚を指します。よって、「マス」というのはサクラマスやニジマス等がありますがサケ科の仲間です。



サケはどのようにして生まれた川に戻ってくるのですか？

日本の川で生まれたサケは、北太平洋のアラスカ湾近くまで行き、その後1～3年、夏は北上、冬は南下しながら成長し、そして日本に向けて回遊します。その際、太陽や磁気から方位を知ると言われていますが、残念ながらはっきりしたことは解りません。しかし、沿岸まで帰ってきて産まれた川を見つける際には、嗅覚が重要な役目を果たすと考えられており、近年は実験によってサケが母川のどのようなニオイを識別しているかが明らかになってきました。

メスのお腹に入っている卵数はどのくらいですか？

おおよそ 2,000～3,500 粒の卵がお腹に入っています。体のサイズが大きいほど卵の数は多くなります。